

新年度予算や県政の諸課題などについて議論

平成20年2月19日から平成20年6月30日までの第1回定例会が始まりました。開会日の2月19日には、「平成20年度三重県一般会計予算」ほか議案57件を上程し、知事から議案の提案説明が行われました。

25日には代表質問、27日、29日、3月5日、7日には一般質問があり、19名の議員が質問に立ちました。

4日には追加議案19件を上程したほか、8名の議員が議案に関する質疑を行いました。

7日には、一般質問の後、緊急を要したことから、条例案1件を先議し、原案どおり可決するとともに、決議案1件を上程し、直ちに可決しました。

10日には予算決算常任委員会総括質疑を実施し、付託された予算案などについて、質疑を行いました。また11日から14日までは各常任委員会および予算決算常任委員会の各分科会を開催し、付託された議案および請願について、審査・調査を行いました。

さらに18日には予算決算常任委員会を開催し、議案の審査などを行いました。

19日には、知事提出議案76件を原案どおり可決したほか、「県が所管する公益法人及び公益信託に関する条例等の一部を改正する条例案」ほか1件の議員提出議案の条例案を追加上程し可決するとともに、副知事ほか2件の人事関係議案を追加上程し、同意しました。また、請願4件を採択し、意見書案7件と決議案1件を可決しました。

31日には、議員提出議案の「三重県政務調査費の交付に関する条例の一部を改正する条例案」、知事提出議案の「三重県県税条例の一部を改正する条例案」を追加上程し、可決しました。

代表質問

道路特定財源の一般財源化と地方分権

三谷 哲央 議員
(新政みえ/桑名市・桑名郡選出)

問

権限と財源を自治体に移し、限られた予算をどう使うか、住民に近いところで決めるのが地方分権の考え方です。

道路整備についても、本当に必要な道路はどれか、自治体の長や議会の判断で決めるようにしてこそ、効率的で無駄のない使い方ができると考えます。知事は、地域のことは地域が決める「地域主権」の社会を主張しているのに、どうして道路特定財源の堅持を求めているのですか。一般財源化して、地方が使い道を考えるべきと考えますが、いかがですか。

答

産業振興、観光振興、災害対策等の基盤となる幹線道路等道路ネットワークの整備を進めており、道路財源を安定的に確保することが必要不可欠です。

自主的に判断できる一般財源が望ましいと考えますが、

暫定税率の廃止後に、道路整備財源が確保できるのか不透明であり、このような状況下では暫定税率の維持を強く望みます。

一般財源化も含めた見直しについては、地方分権改革全体の中で、時間をかけて取り組んでいくテーマだと考えます。その他の質問事項
○県と市町の関係の再構築
ほか



三重県が目指す元気な産業づくり

山本 勝 議員
(自民・無所属議員団/桑名市・桑名郡選出)

問

県内産業の持続的な成長を図っていくためには、県内製造業の知識集約型産業構造への転換を促進していく必要があります。

①高度部材イノベーションでは、人材育成、最先端の研究開発の機能を有していると聞いていますが、どのような取り組みを計画しているのですか。

文中の傍線部分については、7ページに用語解説を掲載しております。